

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービスくら					公表日 2026年1月27日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	1	1	定員に応じたスペースの確保はできている。	活動内容、遊びの様子に応じたスペースの使い方の工夫を続ける。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	2		利用日の職員配置を掲示している。また、シフト表を掲示し、各自が確認している。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	2		当日の活動予定を保育室のホワイトボードに記載し「見える化」することで安心感につなげている。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	2		日々活動後の清掃、機器を使用しての空調を行い、衛生的な環境整備に努めている。	引き続き、細やかな道具の整理方法を工夫していく。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	2		着替えが必要な場合は、男女で部屋を分けて使用している。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	2		職員会で活動の目標や振り返りを行い、全職員に議事録の回覧を行っている。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	2					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	2		職員間のコミュニケーションを大事にしており、日々の振り返りや職員会を通じて活発な意見交換を行い業務改善につなげている。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		1		第三者による外部評価の実現性について検討していく。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	2		動画、書物、研修会等により、全職員が資質向上を図るための機会を確保できるようにした。			
適	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	2					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	2		5領域の支援に対応した計画書の作成を行っている。			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	2		個別支援計画策定会議を実施している。			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	2					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	1		フォーマルな評価が実施されている場合は、インフォーマルな評価と組み合わせながら、総合的な子どもの理解に努めている。			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	2					

切 な 支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	2		学習、製作、ゲーム等、担当者が中心となり計画し、チーム全体の理解を図り、実施している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	2		個々の状態に応じたテーマ、季節や行事に応じたテーマを考え活動している。	事業所外活動は、場所や内容が固定化している。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	2			今後も個々に合った支援方法を工夫していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	2		当日の利用者を把握し、職員の動きが確認しやすいよう送迎表を作成するなどして、職員間で確認ができています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2		個々の気付きを自由に話せる場を大切にしている。職員間で報告や確認、相談ができています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	2			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	2			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	2			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	2		創作活動において「スモールステップ」の過程で利用者に選択の機会を設け、自己決定を促す力を育むための支援をしている。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	2		各月開催の定例会、サービスに関する担当者会へ管理者兼児発管が参加した。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	1			△1：医療機関、障がい福祉はできている。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	2			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	1			△1：全員ではないが、児発との共有はできている。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2			事業所を退所し、他の障害福祉サービス事業所等へ移行する場合は、懇談や担当者会議を実施し、支援内容についての情報提供を行い、円滑な移行に努める。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	1	積極的に研修会へ参加した。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2		地域の高校生との野菜植えやゲーム交流会を行った。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1			（分からない：1）協議会等への参加をしていることを周知した。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	2		送迎時に活動の様子や課題などを伝え、情報共有の上、支援の共通理解に努めている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2		県などから届いたチラシは玄関に掲示している。	掲示板やお便りを通じて、家族等も参加できる研修会や講演などの情報提供を行っている。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	2		契約時に重要事項説明書に沿って支援の内容、利用者負担等について説明している。	懇談の機会に不明な点がないか保護者に確認していく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	2			

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	2		懇談で個別支援計画の説明を行っている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	2		懇談や担当者会議の場で子育ての悩みや困りごとを共有し、意見交換や助言を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		2	2日間に分け、希望者全員が参加できる夏祭りを実施した。利用者の家族と一緒に楽しめる機会となった。	共働きの家族が多く、保護者会の開催は難しいが、利用者と一緒に楽しめるイベントの中でさらに交流を深める内容を工夫する。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	2		契約時に重要事項説明書の中で苦情等申立に関する説明を行っている。	特に対応が必要な苦情はなかったが、必要時にはマニュアルに従い対応する。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	2		年3回のくじらだより、活動の掲示、HPにより情報発信に努めた。	よりわかりやすいメールやお便りの書き方を検討する。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	2		職員に対しては、守秘義務契約を結んでいる。利用者や保護者に対しては、契約時に個人情報使用同意書や写真撮影等の同意書をとっている。	引き続き、研修等を通じて個人情報取り扱いについてのルールを確認し、職員の意識を高めることで情報管理に努める。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	2		利用者に対しては、掲示、図や絵を利用しての情報伝達を活用した。保護者に対しては、メール、お便りを使い、いつでも情報を確認できる方法で意思の疎通や伝達を行った。	よりわかりやすいメールやお便りの書き方を検討する。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	1		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	2		各種マニュアルを施設内に設置し、自由に閲覧できるようにしている。火災、地震、不審者対応避難訓練、非常時体験を実施し、保護者へはお便り等で報告した。	避難訓練の報告、警報対応文書の配布、安全計画の掲示及び配布を行い周知していく。また事業所内では各マニュアルの内容を具体的に説明する研修を定期的に行っていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	2			非常時に対応できる力が備わるよう、安全計画に基づいた体験学習を行い、保護者へ報告する。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	2			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	—	—	現在対応に必要な利用者がいない。必要に応じて対応する。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	2			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	2		毎年度安全計画を作成し、掲示板にて周知している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	2		ヒヤリハット事例ではないが、日々職員間で確認している。事例についてもその都度対応や再発防止策を職員間で協議し、文書で回覧している。	ヒヤリハット事例を共有することで職員一人ひとりが危険に対する気づきを高め、安全意識の醸成を図る。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	2			今後も研修会への参加、事例検討により虐待防止に対する意識を高める。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	2			